

## 岡山県内

# 注目高まる企業研修

岡山県内で企業向けの研修に注目が高まっている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた企業が、生産調整や営業活動の自粛などで空いた時間に従業員のスキルアップを図り、コロナ収束後の事業展開にも生かそうと活用。研修を開催する支援機関も企業ニーズに沿ったメニューの提供できめ細かいサポートを目指している。(田村柚乃)

10月上旬、金型部品製造・木村スチール(岡山市東区上道北方)で開かれた岡山職業能力開発促進センター「ポリテクセンター岡山」(同市北区田中)の出前講座。生産性向上のための業務改善や部署間の連携を学ぶのが目的で、この日は製造現場の8人が12月まで計9回のプログラムのスタートを切った。

同講座は日程や場所、内容などを各社の要望に応じて柔軟にオーダーメイドできるのが特長。木村スチールは受注の減少で時間に余裕ができたのを機に課題だった納期短縮を図ろうと受講を決めた。プログラムの作成に当たっては同センターと調整を重ね、作業の遅れが出やすい工程の改善を話し合うグループワークなど独自メニューも組み込んだ。

「今までできなかった社員教育の機会と捉え、



ポリテクセンター岡山が開いた出前講座を受講する木村スチールの社員＝10月上旬、岡山市東区上道北方

## コロナ禍で空き時間増 柔軟なテーマ設定魅力

は、岡山商工会議所(同厚生町)。6月以降、テレワークの導入や事業承継、労務対策といった6テーマで開催し、延べ160人以上が参加した。

同市内でカフェを経営する柿内慶教さん(40)は6月に集客に関するセミナーを受講。半減した売上高を回復させるためセミナーを参考に会員制交流サイト(SNS)に店の感染対策やテイクアウト商品を紹介したところ、最近では客足が戻りつつあるという。

同会議所では、コロナ禍での販路拡大の手だてやリスク分散対策に関心を寄せる企業も多いことから、今後はITの活用やBCP(事業継続計画)策定などのテーマも計画している。

このほか、国の雇用調整助成金が上乗せされる「教育訓練」として研修を利用する企業もある。

県産業振興財団(同芳賀)が5、10月に自動車関連メーカーを対象に開いた研修では、17社が「教育訓練」として受講した。同財団は「業界の最新動向や先端技術をメニューに盛り込み、企業に情報発信していきたい」としている。